雑草はなぜそこに生えているのか (4)

（次の文章は、日本タンポポと西洋タンポポの違いについて述べたものです。）

よく知られているように、日本には昔からある在来の日本タンポポと、明治時代に日本にやってきた外来の西洋タンポポがある。

（中略）西洋タンポポは花粉がつかなくても種子を作ることができる「アポミクシス」という特殊な能力を持っている。そのため、まわりに仲間がいなくても、花粉を運ぶ昆虫がいないような環境でも、種子を作ることができるのだ。

①西洋タンポポが、自然の少ない街中などに多く見られるのはそのためである。

また、西洋タンポポは春だけではなく、一年中、花を咲かせて種子をつけることができる。こうして、どんどん増えていくのである。

最近では、西洋タンポポが増殖して、勢力を拡大しているのに対して、日本タンポポがだんだんと数を減らしていると指摘されている。

どんどん花を咲かせて、どんどん種子を作ることができる西洋タンポポの方が、日本タンポポよりも有利なのだろうか。

そんなことはない。

日本タンポポは、春しか咲かない。そして、種子をつけると根だけ残して、葉が枯れてしまうのである。カエルやヘビが土の中で冬をやり過ごすことを「冬眠」と言うように、日本タンポポの場合は、夏の間、根だけ残して土の中で過ごすので「夏眠」と呼ばれている。

②日本タンポポが「夏眠」をするのには理由がある。

夏になれば、他の植物が生い茂る。こうなれば、小さなタンポポには光が当たらない。そこで、日本タンポポは、他の植物との戦いを避けて、地面の下でやり過ごすのである。

つまり、③日本タンポポは、他の植物が生い茂る日本の自然環境では戦略的なのである。

一方、西洋タンポポは、春だけでなく、夏にも花を咲かせようとするので、他の植物に負けてしまう。そのため、他の植物があるような場所では生存することができないのだ。その代わりに、西洋タンポポは、他の植物が生えないような都会の道ばたなどで花を咲かせて、分布を広げているのである。

西洋タンポポが広がり、日本タンポポが少なくなっているとすれば、本当は、日本タンポポが生えるような日本の自然が減少し、都会の環境が増えているということなのかも知れないのである。

西洋タンポポと日本タンポポと、どちらが強いということはない。西洋タンポポも日本タンポポも、どちらも自分の得意な場所に生えているのである。

（稲垣栄洋『雑草はなぜそこに生えているのか』筑摩書房　第六章による）

生存競争と戦略

植物は光や水、栄養分などをめぐって激しい生存競争を行っている。競争に勝つために他の植物よりも大きく枝葉や根を伸ばすものもあるが、競争の少ない場所に生息したり、競争の少ない時期に繁殖したりするものもある。

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「西洋タンポポが、自然の少ない街中などに多く見られるのはそのためである」とあるが、西洋タンポポが街中で多く見られるのはなぜか。適当なものを選びなさい。

ア　仲間や、花粉を運ぶ昆虫の少ない街中でも、西洋タンポポなら花粉なしでも繁殖することができるから。

イ　一年中花を咲かせる西洋タンポポは、季節の変化の少ない街中でも花粉を遠くに運ぶことができるから。

ウ　自然の少ない街中では、花粉を運んでしまう昆虫など西洋タンポポにとっての外敵が少ないから。

〔　　〕

(2) ――線②「日本タンポポが『夏眠』をするのには理由がある」とあるが、日本タンポポはなぜ夏眠するのか。（　）に当てはまる言葉を本文中から二十字以上二十五字以内で探し、最初と最後の三字を答えなさい。

他の植物が生い茂る夏を、（　　）ため。

□□□～□□□

(3) ――線③「日本タンポポは、他の植物が生い茂る日本の自然環境では戦略的なのである」とあるが、これについて正しく述べたものを選びなさい。

ア　日本タンポポの「夏眠」は、夏に生い茂る他の植物で光が当たらず、葉が枯れてしまうことが原因で発生する。

イ　日本タンポポの「夏眠」は、他の植物が生い茂る時期にも枝葉をのばし、戦いに勝って光を得るためのものである。

ウ　日本タンポポの「夏眠」は、夏に植物が生い茂る日本の環境に適応したもので、その環境での生存に有利になっている。

〔　　〕

(4) 本文の内容に当てはまらないものを選びなさい。

ア　西洋タンポポのほうが、次々に種子を作ることができるので、日本タンポポよりも強い植物であるといえる。

イ　西洋タンポポが増殖して日本タンポポが減少していることは、日本の環境の変化を反映している可能性がある。

ウ　西洋タンポポは、他の植物が生えないような場所を得意として、勢力を拡大している。

〔　　〕